礼拝説教（2023 年３月 12 日）

説教者：中村信哉

あらゆる慰めに満ちた神

コリント人への手紙第二１章 3-7 節

はじめに

私が月の第二週に説教をする時は、「コリント人への手紙第二」から説教をすることにしています。今日の聖書箇所には、「苦しみ」と「慰め」という言葉が繰り返し出てきます。

私たちの人生には、様々な苦しみがあります。そもそも私たちの人生には、なぜ苦しみがあるのでしょうか？聖書は、その原因は、人間が神様に背いて罪を犯したからだと教えています。人類最初の人であるアダムとエバが、神様に背いて禁断の木の実を食べた時、神様はエバにこう言われました。**「わたしは、あなたの苦しみとうめきを大いに増す。あなたは苦しんで子を産む。また、あなたは夫を恋い慕うが、彼はあなたを支配するようになる」（創世記 3:16）**。またアダムにはこう言われました。**「あなたが妻の声に聞き従い、食べてはならないとわたしが命じておいた木から食べたので、大地は、あなたのゆえにのろわれる。あなたは一生の間、苦しんでそこから食を得ることになる。大地は、あなたに対して茨とあざみを生えさせ、あなたは野の草を食べる。あなたは、顔に汗を流して糧を得、ついには大地に帰る。あなたはそこから取られたのだから。あなたは土のちりだから、土のちりに帰るのだ」（創世記 3:17-19）**。

人類最初の人であるアダムとエバが、神様に背いて禁断の木の実を食べた時から、全人類に苦しみがもたらされたのです。家庭の苦しみ、仕事の苦しみ、人間関係の苦しみ、自然災害の苦しみ、そして死の苦しみです。私たち人間には、もともと苦しみがあったのではなく、私たち人間が神様に罪を犯した結果、苦しみがもたらされるようになったと聖書は教えているのです。

しかし今日の聖書箇所には、**「神は、どのような苦しみのときにも、私たちを慰めてくださいます」**とあります。神様は、私たちを苦しみの中で見捨てることはなさいません。神様は、苦しみの中で私たちを慰めてくださると言うのです。

1. 私たちが信じる神とはどんな方か？

では、私たちが信じている、聖書の神様とはどんな方でしょうか？3 節を見てみましょう。**「私たちの主イエス・キリストの父である神、あわれみ深い父、あらゆる慰めに満ちた神がほめたたえられますように」**。私たちが信じている、聖書の神様は、第一に「主イエス・キリストの父」です。二千年前にこの地上に実在した主イエス・キリストが説き明かした神様こそ、私たちが信じる神様です。ヨハネ１：18 に、**「いまだかつて神を見た者はいない。父のふところにおられるひとり子の神が、神を説き明かされたのである」**とあります。神様は、ひとり子であるイエス様をこの世に遣わし、イエス様を通して御自分を現わされたのです。ですから私たちは、

イエス様を通して神様を知らなければなりません。日本には、八百万の神がいると言われますが、私たちはイエス・キリストを通して知る神こそ、唯一のまことの神であると信じているのです。

第二に、私たちが信じている神様は、「あわれみ深い父」です。神様は、イエス様の父であるだけでなく、私たちの父ともなってくださる神様です。ヨハネ１：12 に、**「この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとなる特権をお与えになった」**とある通り、イエス様を信じ受け入れた人々は誰でも、神様の子どもとされ、神様を自分の父とすることができます。そして神様のあわれみと愛の中で永遠に生きることができるのです。

第三に、私たちが信じている神様は、「あらゆる慰めに満ちた神」です。私たちの人生には、あらゆる種類の苦しみがあります。自分の罪が直接招いた苦しみもあります。つまり、自分が蒔いた種を刈り取るような苦しみがあります。それとは別に、旧約聖書のヨブのように、因果応報では説明できないような苦しみもあります。病気になったり、事故に遭ったり、人から危害を加えられたり、自然災害に遭ったりなど。しかし４節に「神は、どのような苦しみのときにも、私たちを慰めてくださいます」とあります。神様は「どのような苦しみ」の中でも、私たちを慰めてくださる方です。だからこそ「あらゆる慰めに満ちた神」と表現されているのです。私たちのあらゆる苦しみに対して、あらゆる慰めを与えてくださるのが、私たちが信じている神様なのです。

2. <u>神から慰めを受けた者たち</u>

では、イエス様を信じ受け入れて、神様の子どもとされ、神様を父として、神様からの愛と憐れみとあらゆる慰めを与えられる人は、どのような人になっていくのでしょうか？4 節を見てみましょう。**「神は、どのような苦しみのときにも、私たちを慰めてくださいます。それで私たちも、自分たちが神から受ける慰めによって、あらゆる苦しみの中にある人たちを慰めることができます」**。

イエス様を信じて神様から慰めを与えられた人は、あらゆる苦しみの中にある人たちを慰めることができるようになるのです。「慰め」とは何でしょうか？ここで「慰め」と訳されている言葉は、ギリシヤ語の「パラクレーシス」という言葉ですが、「励ます」「勧める」「願う」とも訳される言葉です。ですから、ここでの「慰め」というのは、「話を聞く」とか「側にいる」というよりも、もう少し積極的な「慰め」、言葉による「慰め」のような気がします。

６節には、**「その慰めは、私たちが受けているのと同じ苦難に耐え抜く力をあなたがたに与えてくれます」**とあります。「慰め」というのは、「苦難に耐え抜く力を与えること」とも言えると思います。苦しみの中にある人に、その苦しみを耐え抜いて、乗り越えていく力を与えていくこと、それが「慰め」というものなのかもしれません。

私たちは、苦しみの中にある人に、どのような言葉をかけてあげればよいのか分からないという時がよくあります。どう慰めたらよいのか分からないという時がよくあります。しか

しパウロは、神様から慰めを与えられた人は、あらゆる苦しみの中にある人たちを慰めることができると言うのです。私たちは、どうしたら人を励まし、慰める人になることができるのでしょうか？それは、私たち自身が、神様からの慰めを経験することです。私たち自身も、人生のあらゆる苦しみを経験します。その時に私たちは、どのような慰めによって、その苦しみに耐え、乗り越えているでしょうか？人に相談することもあるでしょう。楽しいことをして気分を紛らわすこともあるでしょう。しかし私たちは、苦しみの中で、神様からの慰めを経験しているでしょうか？

では、神様からの慰めというのは、どのように経験できるのでしょうか？イエス様は、ヨハネ 14：26 でこう言われました。**「助け主、すなわち、父がわたしの名によってお遣わしになる聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、わたしがあなたがたに話したすべてのことを思い起こさせてくださいます」**。イエス様はここで、「聖霊」のことを、「助け主」と呼んでいます。ここでの「助け主」という言葉は、ギリシヤ語の「パラクレートス」という言葉です。先ほど言いましたように、「慰め」というギリシヤ語は「パラクレーシス」です。これは同じ語源です。ですから、聖霊という方は、私たちを助けてくださる方であり、私たちを慰めてくださる方だと言えます。

では、聖霊は、具体的にどのように私たちを助け、慰めてくださるのでしょうか。それは、イエス様が話したすべての事を思い起こさせ、教えてくださることによってです。つまり聖霊は、聖書の御言葉を通して、私たちを助け、励まし、慰めてくださるのです。神様は、あらゆる苦しみの中で、私たちを慰めてくださいます。その慰めは、聖書の御言葉を通して私たちに与えられるのです。苦しみの中で、聖書の御言葉を読む時に、聖霊が私たちの心に働いて、私たちに励ましと慰めの言葉を与えてくださるのです。

あらゆる苦しみの中にある人たちを慰めることができるのは、神様から慰めを与えられた人です。神様から慰めを与えられた人というのは、あらゆる苦しみを経験し、その苦しみの中でもなお、聖書の御言葉を読み続け、聖霊によって励ましの言葉、慰めの言葉を与えられた人ではないでしょうか。そういう人こそが、あらゆる苦しみの中にある人たちを、本当の意味で慰めることができるのではないでしょうか。

3. キリストの苦難

では、パウロは具体的にどのような苦しみを経験していたのでしょうか。5-6 節を見てみましょう。**「私たちにキリストの苦難があふれているように、キリストによって私たちの慰めもあふれているからです。私たちが苦しみにあうとすれば、それはあなたがたの慰めと救いのためです。私たちが慰めを受けるとすれば、それもあなたがたの慰めのためです。その慰めは、私たちが受けているのと同じ苦難に耐え抜く力をあなたがたに与えてくれます」**。

先ほども言いましたように、私たちの苦しみには、あらゆる種類の苦しみがあります。自分の罪が直接招いた苦しみもありますし、病気になったり、事故に遭ったり、人から危害を加えられたり、自然災害に遭ったりなど、因果応報では説明できないような苦しみもありま

す。しかしパウロは、それらとは違うもう一つの苦しみを経験していたのです。それは、「キリストの苦難」、つまり「キリストのための苦しみ」です。

「キリストのための苦しみ」とは、何でしょうか？それは、６節に「私たちが苦しみにあうとすれば、それはあなたがたの慰めと救いのためです」とあるように、人々の救いのために苦しむことです。イエス様は、私たちの救いのために十字架で苦しまれました。それが「キリストの苦しみ」です。私たちも人々の救いのために苦しむなら、「キリストの苦しみ」をイエス様と共に経験するのです。

パウロは、自分の苦しみ、自分の問題で苦しんでいたのではなく、「キリストの苦しみ」、キリストのために、人々の救いのために苦しんでいたのです。パウロは、ピリピ１：29 でこう言っています。**「あなたがたがキリストのために受けた恵みは、キリストを信じることだけでなく、キリストのために苦しむことでもあるのです」**。イエス様を信じる時に、私たちは苦しみがなくなるわけではありません。私たちの内に、またこの世に罪の性質がある以上、完全に苦しみから解放されることはあり得ません。ただ、イエス様を信じる私たちは、あらゆる苦しみの中で、神様からの慰めを与えられることができる、そしてあらゆる苦しみの中にある人たちを慰めることができるということは確かなことです。それと同時に、イエス様を信じる私たちは、「キリストのために苦しむ」という使命も与えられているのです。イエス様を信じる私たちは、自分の問題で苦しんで人生を終えるのではなく、キリストのための苦しみを背負って生きることが求められているのです。自分のために苦しむ人生ではなく、キリストのために苦しむ人生です。イエス様は、私たちのために十字架で苦しんでくださいました。そうであるならば、私たちも十字架を背負って、イエス様のために苦しむべきではないでしょうか。イエス様が私たちのために苦しんでくれたので、私たちは苦しまなくて良いのではありません。イエス様が私たちのために苦しんでくれたのだから、私たちもイエス様のために苦しまなければならないのです。

「キリストのための苦しみ」というのは、何も伝道や教会形成だけではないでしょう。社会の中で、地の塩・世の光として生きることも「キリストのための苦しみ」でしょう。また、クリスチャンホームを建設するということも「キリストのための苦しみ」でしょう。私たちがもし、キリストにあって教会や職場や家庭の中で「苦しみ」を経験しているなら、それはパウロと同じように「キリストのための苦しみ」と言えるのではないでしょうか。

おわりに

最後に、７節を見てみましょう。**「私たちが抱いている望みは揺るぎません。なぜなら、あなたがたが私たちと苦しみをともにしているように、慰めもともにしていることを、私たちは知っているからです」**。教会というのは、苦しみをともにし、慰めをともにする所です。教会の交わりとは、苦しみを共有すること、また慰めを共有することです。何度も言いますが、私たちの人生にはあらゆる種類の苦しみがあります。しかしパウロとコリント教会の間には、「キリストのための苦しみ」と「キリストにある慰め」を共有する交わりがあったのです。そして、その

ような交わりがあったからこそ、「私たちが抱いている望みは揺るぎません」とパウロは言ったのです。パウロが抱いている「望み」とは、イエス様がこの地上に再び来られる時に、あらゆる苦しみから完全に解放され、救われるという「望み」です。もし私たちの教会にも、「キリストのための苦しみ」と「キリストにある慰め」を共有する交わりがあるなら、私たちも揺るがない希望、私たちもやがてあらゆる苦しみから完全に解放され、救われるという確かな希望を持つことができるのです。

天におられる私たちの父なる神様。

私たちの人生には、あらゆる種類の苦しみがありますが、それは私たち人間があなたに背いた結果、もたらされたものです。しかしあなたは、イエス様を信じる私たちがどのような苦しみの中にあっても、慰めを与えてくださる方です。どうか私たちが、あなたの御言葉を通して与えられる慰めを通して、あらゆる苦しみの中にある人たちを慰めることができますように。

私たちの人生は、苦しみに満ちていますが、自分のための苦しみで人生を終えてしまうことがありませんように。私たちのために苦しんでくださったイエス様のために、私たちも「キリストのための苦しみ」をも背負って、人生を生きることができますように。そして、確かな揺るがない希望をもって生きることができますように。

苦難に満ちた人生の中で、教会は苦しみを共にし、慰めを共にする交わりを形成することができますように。

この祈りを私たちの救い主イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。